

【SNOWBELL FACADE Official AlbumNotes】

ワンと鳴いてニャン創設期に GM としてチームを作り現在への基礎を固めた功労者、中村ロビンソン GM によるミニアルバム「SNOWBELL FACADE」全曲解説です。

01. 夢幻 Deepest Light

notorious PF というバンドとして活動していた時代のレギュラー曲を現メンバーで大幅刷新したナンバー。大規模リニューアルが功を奏し、今ではバンドの代表曲のひとつとしてライブでも欠かせないナンバーになっている。当時は速さと勢いに圧倒されるようなメロコア、パンクな楽曲だったそうだが、このリニューアルにより全く異なる楽曲として生まれ変わり、ワンと鳴いてニャン 49 のトップバンド「ONE MORE Purple」のすべての要素をまとめたような名刺代わりの作品だと言える。シングルリリースされた時のボーカリスト「山下遼海」選手のバージョンではなく、こちらは新たに「なぐさ。」選手をボーカルとして起用し、演奏も録り直しをしミックスもゼロからやり直した完成版が満を持してこのミニアルバムに収録された。この曲の武器は聴いてわかるように幻想的な雰囲気、音色による圧倒的な心地よさである。本当に居心地良い空間を演出してくれる曲なので是非何度でもリピートしてもらいたい。

02. MEDI 震、ダメ、ゼッタイ

こちらは期待の若手男性ボーカリスト「+Kaise」選手がボーカルを務めているバージョンとしてミニアルバムに収録されている。彼の歌声はダークで疾走感のあるこういう曲に深くハマり、ここでも全面に良さが引き出されている印象を受けた。タイトルは謎めいているが、歌詞を見ると言いたいことが伝わると思うと作者が話していたのを思いした。しかし私はよく理解が出来なかったので聴いているあなたにそこは紐解いてもらいたい。ライブの序盤に勢いをつける役割にぴったりですすでに定番化している印象である。フルアルバム「Snowbell」の楽曲の中に入ってもまるで違和感を感じないのは音楽性もブレずにこの期間、制作してきた証であると当時から現場で接してきた私だから伝えられることである。このミニアルバムの中では最も攻撃的で激しいナンバーであるが、キャッチーなメロディにより最も親しみやすい曲でもあるように思える。

03. 宇宙開発 BIG 逆転 STORY

安定したボーカリストとして所々重要な楽曲に選抜されるボーカリスト「真城由理」選手と女性ボーカリスト「はるきをん」選手のコンビは相性が良いのか、聴いていてまるで長年 2 人でボーカルワークを作り続けてきたかのような感覚になっていく。そんな 2 人の歌声を支えるキャッチーなメロディと軽快なバンドサウンド。このバンドは、こういう雰囲気の曲も出てくるんだ！と聴いた時すごく驚いた曲である。ダークな歌詞が多い反面、こうしたポジティブな応援ソングも増えているのはバンドが良い方向に変化していることだと認識出来る。タイアップなどにも合いそうで、もっと世間に広まっていくべき楽曲であるし、バンドの代表曲として是非これ以上の成長に期待したいのでライブでももっともっと演奏してもらいたい。

04. Candle Show

後に「Candle Snow」という曲に繋がっていく、アナザーストーリー的な立ち位置の楽曲。インストナンバーのようで実は僅かながら歌も入り、「真城由理」選手のポエトリーが秀逸。演奏もこちらは歌よりも演奏により比重が大きい曲ということで、歌がしっかり入っている Candle Snow とは別のテイクになっているので聴き比べをしてみると面白いかもしれない。これから始まるキャンドルショーへの招待状だというように私は捉えたのだからだろうか？

05. AROMA ESSE

男性ボーカリスト「真城由理」選手によるバージョン。これはシングルリリースされた形と同じである。フルアルバムで大きな変化を見せたこの曲の原型だ。なんと言っても世界観がずば抜けている屈指の楽曲でライブでは絶対にプレイすべき曲として私も前から推していた曲である。ロックバンドなのに優しさに包まれ、疲れた心を癒やすこの曲があるというのは絶対に他にはないテイストなので推している。

06. SALZ PIT F

バンドの方向性をより一層、多岐に分散させてくれそうな楽曲。一辺倒ではないバリエーションさが武器のひとつだがこれには驚いたメンバーも多い。いわゆるリピート、リール系の流行りの様相がありつつもこのバンドらしさも残しつつも完全に新たなサウンド。しかも女性ボーカリスト「はるきをん」選手の存在感が半端なくカッコいい。そしてサウンドも一気にハードかつエモーショナルにシフトチェンジ。フェスなど他のバンドの前でライブをやる際は是非1曲目にこの曲を演奏して周りを圧倒してもらいたいと期待をしている。こちらの原曲はアルバムのバージョンとはシンプルなアレンジになっている。

07. SALZ PIT B

エースボーカルとして期待されて加入したボーカリスト「欄-RUN-」選手を起用した、バラード楽曲。哀愁感のある歌声がこのメロディにマッチ。ロックなバージョン F よりも、こちらのバージョン B に彼を抜擢したのは大成功だったと感じる。このミニアルバムの終焉になだらかに、そして力強く結びつけていく重要なパートをこのロックバラードが彩りを深めていく様を感じて欲しい。

08. ユルセナイヤツ

「なぐさ。」選手のハイトーンとダークなメロディを軸にハードなアレンジのエモーショナルロックが程よく打ち解けている完成度のかなり高い自信作と思われる。この曲をラストに持ってきた意味をずっと考えているのだが、なかなか最良なアンサーを見つけることが出来ない。その答えはリスナー自身が実際に聴いて見つけてくれればいいと私は思っている。とにかくこの曲もメロディーの輪郭がとてもはっきりわかりやすくシンプルなのに、楽器たちのこだわりを強烈に感じるアレンジにはただただカッコイイ！！